

第2回協議会だより 《南方部》



令和6年10月17日（木）15:00～16:40 郡山市役所 正庁

【実践発表】 もりのなかま保育園郡山安積園サイエンス+

遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～



もりのなかま保育園郡山安積園サイエンス+は「グローバルな社会で輝ける子どもの個性を育む」を、園の使命・存在意義として捉えています。グローバルとはグローバルとローカルを組み合わせた造語で、両方を大切にしながら運営しています。サイエンス+とは、保育者と子どもが「わくわく、ドキドキを楽しむこと」をねらいとして、普段の保育に科学を取り入れたものです。上記写真は水に油を垂らして「どうして混ざらないの？グルグル回してみる？」と言いながら遊んでいるところです。子の発想は無限大、不思議な気持ちから思考力の芽生えに繋がっています。様々な科学の遊びから「10の姿」が育まれていることが分かりました。その他普段の保育として、じゃがいもの栽培や公園で拾った落葉の共同制作、異年齢児交流等が紹介されました。年長児が「赤ちゃん、いいにおい・・可愛いね」と言いながら、自然と温かい言葉をかけて接しています。子どもたちは環境や体験から生きる力を身に付けていくこと、保育士は子どもの心身の健康を守りながら保育を進めていることから、主体は子どもであり保育士でもあることを、実践発表から学びました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ もりのなかま保育園郡山安積園サイエンス+の発表について

- ・保育士と子どもたちが一緒に考えて科学を体験する時間は楽しくて、まさに保育園のねらいどおり「わくわく、ドキドキ」の時間であると思います。この活動を通して、毎日を楽しみに登園していることが、何より嬉しいことだと思います。
- ・子どもの気付きを大切にしたい保育をすることで「学びが楽しい」と思えば、意欲も高まり小学校の学びに繋がると感じました。

☆ 遊びを通して育まれる資質・能力について～「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」から捉える～

- ・異年齢児交流は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が総合的に育まれるのではないかと。体験を通して学ぶことが大切であり、小学校の学習を進める上でも工夫をしたい。

《参加者からのアンケートから》

- ・遊びを通しての興味、関心が小学校へ入学して「学びたい、知りたい」気持ちに繋がるように、日常生活の中でたくさんの経験をさせてあげたいと改めて感じました。（保育所：参加者）
- ・スタート・アプローチカリキュラムについて難しさもありましたが、協議会に参加したことで「意気込みすぎていたな」と感じました。まずは、子どもたちが楽しく意欲的に過ごせる取組を考えていきたいと思います。（保育所：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。